

令和 7 年度第 3 回千葉県県民活動推進懇談会での意見とそれへの対応

	項目	意見の概要	対応の方向性	計画修正前（原案）	計画修正後（最終案）	最終案 該当ページ
1	県民活動に関心 がある人の割合	・「市民活動団体の活動やボランティア活動への関心の割合」について、従来、関心が低いと言われていた若い世代において上昇傾向がみられることから、この点を計画に記載してほしい。	・令和 7 年度は、男性の 2 0 代から 4 0 代、女性の 3 0 代では前年度の数値を上回るなどの状況も見られることから、こうした観点からの記載を追加しました。	第 4 章 県民活動を取り巻く情勢と課題 2 県民活動をめぐる現状と課題 I 県民活動の現状 （1）県民活動の理解・参加 ～略～ ○県民活動に関心がある人の割合は、若者や働き盛りの世代（2 0 代～5 0 代）で低い傾向にある 第 6 5、6 7、6 9 回県政に関する世論調査（令和 5 ～ 7 年度）によると、「市民活動団体の活動や、ボランティア活動に関心がある」と回答した人の割合は、世代によって異なっており、特に 2 0 代から 5 0 代の若者や働き盛りの世代で低い傾向にあります。	第 4 章 県民活動を取り巻く情勢と課題 2 県民活動をめぐる現状と課題 I 県民活動の現状 （1）県民活動の理解・参加 ～略～ ○県民活動に関心がある人の割合は、若者や働き盛りの世代（2 0 代～5 0 代）で低い傾向にある 第 6 5、6 7、6 9 回県政に関する世論調査（令和 5 ～ 7 年度）によると、「市民活動団体の活動や、ボランティア活動に関心がある」と回答した人の割合は、世代によって異なっており、特に 2 0 代から 5 0 代の若者や働き盛りの世代で低い傾向にあります。 <u>一方、令和 7 年度は、こうした世代のうち、男性の 2 0 代から 4 0 代、女性の 3 0 代では前年度の数値を上回るなどの状況も見られます。</u>	20
2		・若い世代の方の割合が前年度より上がったのは、ちばボランティアナビの成果もあると思うが、その点を計画に記載できないか。	・ちばボランティアナビの登録者は 1 0 代や 2 0 代が過半数を占めており、計画資料編において、サイトの紹介と併せ、若者の利用者が多いことなどを記載することとします。	—	—	
3	市町村の中間支援機能の強化	・市町村などの中間支援組織の機能強化支援について、県域ではなく地域等を絞った上で、情報交流、情報交換を行うような開かれた場を、県にコーディネートしていただきたい。	・各市町村の中間支援機能の強化に向けては、「市民活動支援組織ネットワーク」を組織し、支援力向上のための情報交換、研修を実施しているほか、県内各地域で開催している「協働のまちづくりセミナー」や、市町村へのアドバイザー派遣事業などにより取り組んでいます。 ・今年度からは、希望する市町村に対し、県民活動推進コーディネーターを派遣し、個々のニーズに応じた支援も行っています。 ・今後もこうした取組を通じて、市町村との情報交流、学びの場やスキルの提供などに取り組んでまいります。	—	—	38、40
		・市町村単位における中間支援の動きが停滞していることから、個々の市町村で行っている中間支援を充実させられるよう、県には学びの場を作ったり、スキル提供を行っていただきたい。				
4	共創の意義	・共創に関わることによって、既存の N P O や自治会などの活動団体も良い意味で変わることができるといったニュアンスを少し加えた方がよいのではないか。	・計画本編において、連携・協働・共創の取組を契機として、他の主体の経験や知識から学び、自身のスキルを磨くことができるとともに、異なる背景や価値観を持つ人々との関わりを通じて、多様な考え方や新たな気づきを得ることができる旨記載しています。 また、計画資料編において、共創などの取組を通じて、活動団体自体が成長していった事例を掲載することで、共創を推進することの意義や効果等を広く周知していくこととします。	—	—	40